



進路だより コンパス Compass

種子島中央高校 進路指導部

No.1

(通号 第118号)

令和4年7月20日

平成21年4月27日 第1号発行

～有意義な夏休みにしよう～

1学期も本日が最後となりました。新型コロナウイルスの影響により多く学校行事で制限等がありましたが、そのような中でも諸行事を無事に終えることが出来た1学期でした。振り返ってみると、それらの行事の中で、進路に関わる行事もたくさんありました。進路ガイダンスや進学相談会、熊毛地域人材確保・育成事業講演会（2学年）、3学年面接説明会、さらには学びの基礎診断や対外模試などもありました。それぞれの行事等を通して、生徒の皆さんは何を目標に取り組み、得ることが出来ましたか。また、自らの進路目標達成に向けて今後どのような取り組みに繋げるのか、しっかり考えて行動ができていますか。

令和4年度新学期始業式で、2・3年生に対しては、学級・学年で団結して取り組むことの重要性について話をしました。一人一人の能力は小さくても、集団で取り組むことで、予想を大きく超える成果が期待できることがあるという話をしました。

ハーバード大学教授であるジョセフ・ヘンリック氏は、人類は「集団の中で共有し世代を超えて伝えられてきた文化を活用して繁栄を極めてきた。」と述べ、その繁栄の背景にあるのは「集団脳」であり、他の動物に比べて元来持っている能力がさほど大きくない人類は、個体としての能力は小さくとも、その集団が大きくかつ相互のコミュニケーションがうまく図られる社会集団で、より高度な技術やノウハウを生み出す事が出来たという。他者に影響を受け、相互に刺激しあって能力を高め合えるところが「集団脳」だという。

学級や学年の集団に置き換えれば、連携が図られ協働の雰囲気形成されれば、学習や技術習得において、効率よく個々の能力向上に繋がるのではないかと思います。皆が同じ方向を向いて取り組むことで、効率的に高め合えるようになると思います。

さて明日からの夏休み期間中、進学補習や部活動など普段とあまり変わらない生活の生徒もいれば、3年生については進学・就職に向けた受験先の絞り込みなど、人生を左右する大切な夏休みになります。友人同士で切磋琢磨し、生徒の皆さんがそれぞれ自己の進路を見定めて、目標達成への具体的な取り組みが進む有意義な夏休みにしてほしいです。

～1学期を振り返ろう～

1学期に行われた主な進路行事について、そのときに学んだことや思い抱いたことを再度振り返り、具体的な行動に繋がられているのか自己診断をしましょう。そして、まだ不十分だと感じる事があれば、夏季休業中に取り組んでみましょう。

先日配布した進路の手引きには、卒業生の進路決定への取り組みが紹介されています。先輩方がどのようにして進路決定に至ったのか、具体的な取り組みと実行に移した時期など、皆さんにとって参考になる事例が掲載されていますので、自分の行動と比較してみてください。

校内進路ガイダンス（6月27日実施）



1年生はパズルワークを通して仕事への理解を深め、2・3年生は進学と就職に分かれて講座を受講しました。また3年生の大学進学者には小論文指導も実施しました。

進学相談会（6月28日実施）



1年生5名、2年生15名、3年3名の合計23名が参加しました。鹿児島大学や鹿児島純心女子大学、志學館大学など、国・私立大学・短期大学11校、専門学校36校が各校の概要説明や入試情報についての説明をしました。

3学年面接説明会（6月30日実施）



ハローワーク熊毛の塩浦さん（就職支援ナビゲーター）や県教委キャリアガイダンススタッフの今給黎さんを招いて、面接における基本的行動の確認をして頂きました。その後、各クラス単位で模擬面接形式の練習をしました。

熊毛地域人材確保・育成事業講演会（7月8日実施）



熊毛支庁主催で2年生を対象とした講演会で、郷土愛や地域貢献の意識高揚を図る目的で実施されました。地元で活躍する山崎晋作氏（NPO法人みしまですよ理事長）・長野正育氏（長野農場代表）の講演およびクロストークを通して、地元貢献への関心や理解を深めました。